

第2期計画における高知市地域アクションプラン（案）

3 高知市地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知市地域は「平成の大合併」により、都市部を中心とした県域の中核機能に加え、田園地域と中山間地域を併せ持つ、バランスのとれた都市となりました。

総人口は、平成22年の国勢調査では343,393人で、県全体の4割余りを占めています。65歳以上の高齢者の比率は、県平均を下回っているものの、他地域と同様に高齢化が進行しています。

総生産額は県全体の5割近くを占めていますが、部門別の構成比は、第3次産業が約9割という突出した形になっています。

農業については、平野部では、水稻、野菜、花き等の早出しを主体とする営農形態となっています。北部の中山間地域では、地理的な特性を活かして、ユズや四方竹の生産・加工、有機による野菜づくりなどが行われ、大消費地に近い地の利を活かして、直販所や街路市等を通じた地産地消の取組が進められています。また、ショウガ等新たな加工に向けた検討や商品化の取組も始まりました。

南部の里山地域と中山間地域では酪農が行われており、出荷される牛乳は県内で加工・販売・消費されていますが、酪農関係者による加工に向けた取組も進んでいます。

林業については、総面積の約60%を占める森林の約半分が杉やヒノキといった人工林で、早急な整備が必要となっており、林道、作業道等の基盤整備や森林組合を中心とした間伐などが進められていますが、木材価格の低迷をはじめ、担い手の高齢化などによる後継者不足等の課題があります。その一方で、国際的な木材の需給の状況や、地球温暖化の防止等に対する森林への関心の高さなどを背景に、国産材を見直す動きが見られます。

大消費地を抱え、水産物を供給する漁業は大きな役割を担っていますが、魚価の低迷や漁場環境の悪化、担い手の高齢化などにより、漁業者の経営環境は厳しさを増しています。

商業については、特に中心商店街や近隣商店街では、空き店舗の増加や歩行者通行量の減少に回復の兆しが見られるものの、郊外型大型商業施設の増加や商店街の核店舗の減少、購買方法の多様化などにより、依然として厳しい状況が続いており、中心市街地の活性化について検討が行われています。

観光面では、「高知城」や「はりまや橋」、「桂浜」などの名所、「よさこい祭り」をはじめとする様々なイベントのほか、「坂本龍馬」「長宗我部元親」などの「歴史」や「食」など、本県を代表するような観光資源を多く有しています。また、効果的な情報発信や周辺地域との広域での連携、豊かな自然を生かした観光遊覧船やまち歩きなどの体験型観光の取組も進んでいます。

(2) 地域アクションプランの概要

高知市地域では、県都・中核市としての都市機能や役割を十分に果たしつつ、主要農産物の振興に加え、それらを活かした1.5次産業の振興や中心市街地の活性化、歴史・文化・自然・食を体感できる観光振興などの取組を進めることとしています。

分野別にみると、農業分野では、県内一の生産を誇るキュウリや日本一の産地であるグロリオサをはじめ、針木産新高梨の更なるブランド化に向けた活動などを独立した項目として位置づけ、それぞれの各事業主体が、より強力に進めることとしています。中山間地域では、基幹品目であるユズ・四方竹の振興に加え、(財)夢産地とさやま開発公社を中心に展開する「まるごと有機プロジェクト」の推進などにより、山の恵みを所得につなげる地産外商の取組を一層促進することとしています。また、本格稼働を始めた春野地区の農産物加工品の開発・販売拡大の取組とともに、JA高知市が行う「食」の提供による地域農産物の消費拡大の取組を新たに位置づけるなど、これまで以上に消費者を意識した展開を図ることとしています。

畜産業では、生乳加工品の製造・販売による新たな酪農経営モデルの確立に向けて、引き続き関係者が連携して取り組むこととしています。

林業分野では、「森の工場」を核として素材生産量の増大を目指すとともに、県産材を使った木造住宅の普及促進活動や竹資源を活用した製品開発・製造など、森林資源の有効活用を図っていくこととしています。

商業分野では、はりまや橋周辺から高知城までの「東西軸エリア活性化プラン」に位置づけられた取組を各事業主体が具体的に推進することにより、県都中心部の商店街活性化につなげていくこととしています。

観光分野では、市内のみならず近隣地域で人気のある観光施設や体験プログラムとの連携を進め、多様で魅力ある広域観光エリアの形成を図ることとしています。また、「よさこい祭り」や坂本龍馬をはじめとする「土佐の偉人」、観光客に評価の高い「食」などをテーマとした、まち歩きや効果的なイベントの展開、情報発信の仕組みなどを民間団体等と連携して進め、「龍馬伝」を契機に盛り上がりを見せている土佐観光の拠点としての役割を果たしていくこととしています。

(3) 重点的な取組

- 地域の特色を活かした多様な農業の展開
(キュウリ・グロリオサ等の基幹品目の生産性及び品質の向上、ブランドの強化)
- 中山間地域の振興
(ユズ・四方竹の生産販売対策の強化、「まるごと有機プロジェクト」の推進、直販店を核とした鏡地域の振興)
- 食品加工の推進
(農産物の付加価値向上、生乳加工品の製造・販売)
- 森の工場を核とした間伐の推進
(搬出間伐を中心とする素材生産量の拡大)
- 新たな分野への挑戦
(竹資源を活用した新しい産業の創出)
- 中心市街地の活性化
(中心商店街でのアンテナショップでの運営、イベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり)
- 魅力ある観光戦略の展開
(「よさこい」・「土佐の偉人」・「食」を活かした観光の振興、滞在型・体験型観光の推進による広域観光エリアの形成)

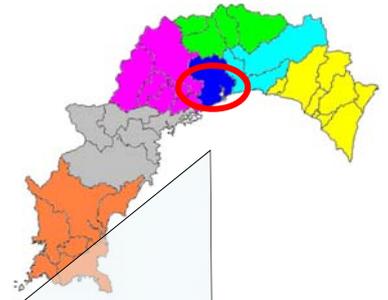
(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
主要農産物の販売額 (キュウリ、グロリオサ等 8 品目の合計)	H22 : 76.0 億円	H27 : 80.5 億円
森の工場における素材生産量	H22 : 1,707m ³	H27 : 4,000m ³
農産物加工品の販売額 (夢産地とさやま開発公社、スタジオ・オカムラの合計)	H22 : 0.1 億円	H27 : 1.7 億円
商店街等の通行量 (夏期・休日)	H22 : 5.8 万人/日	H27 : 5.8 万人/日
宿泊者数	H21※ : 99 万人	H27 : 112 万人

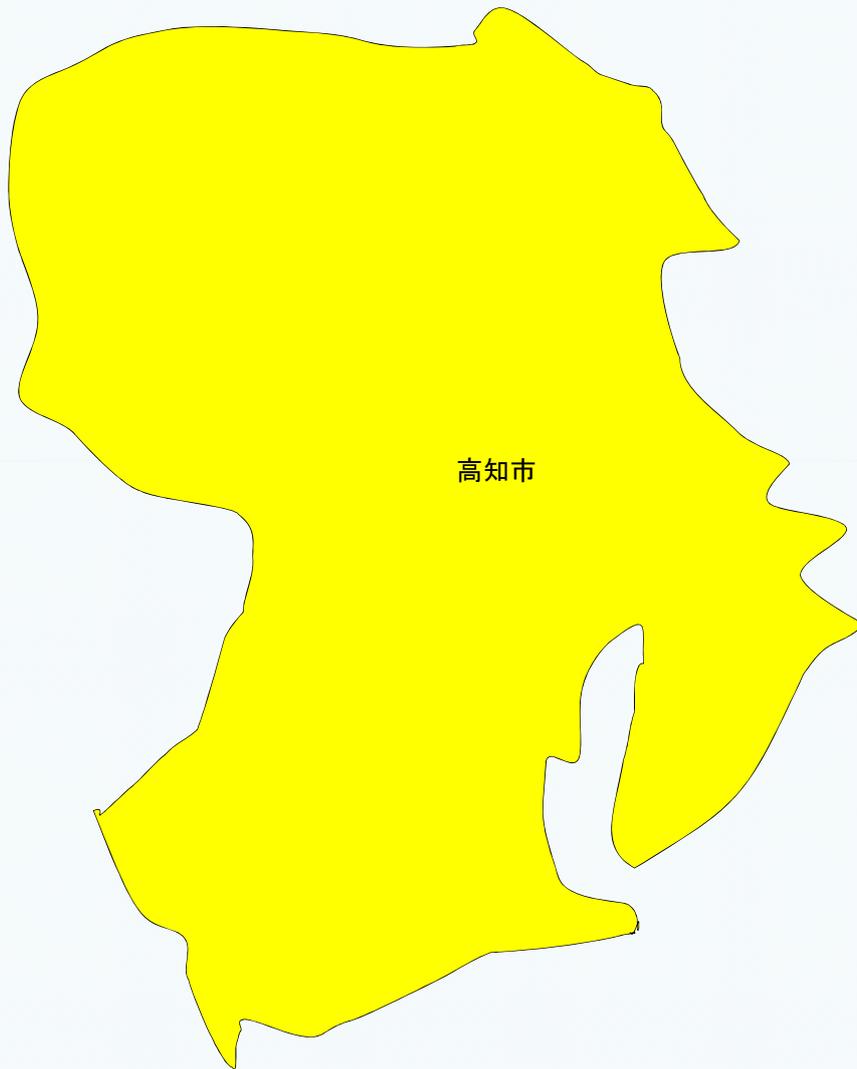
※龍馬伝放送前の数と比較するため、H21の実績とする。

(5) 具体的な取組

No.	項目
1	キュウリの生産販売対策の強化による産地振興
2	グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興
3	生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興
4	イチゴの生産販売対策の強化による産地振興
5	ナシ産地の振興とブランド強化
6	時代のニーズに対応できる早期米産地の生産振興
7	新ショウガの生産振興
8	ユズを核とした中山間農業の活性化
9	四方竹のブランド化による中山間地域の振興
10	「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興
11	薬草の里づくり
12	直販店を核とした鏡地域の活性化
13	春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上
14	「食」の提供による地域農産物の消費拡大
15	生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出
16	森の工場を核とする素材生産量の拡大
17	県産材を使った安心・安全の木造住宅の普及促進
18	竹バイオマスを活用した新しい産業の創出
19	はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化
20	中心商店街でのアンテナショップの運営
21	多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり
22	おまちに関する情報発信の充実
23	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上
24	近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進
25	「よさこい」を通じた観光客の誘致
26	温泉開発による観光地としての魅力の向上
27	浦戸湾を活用した観光の振興
28	土佐の偉人を活かした観光の振興
29	食による観光の推進



【高知市地域】



1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、
21、22、23、24、25、26、27、28、29

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21～23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興	県内一のキュウリ産地の生産から流通・販売までの課題解決に取り組み、産地基盤の強化と農家所得の向上を図る。	・JA高知春野 ・JA高知春野キュウリ部会	<ul style="list-style-type: none"> ・黄化エソ病対策(H21～23) ・有利品種の探索と導入(H21～23) ・品質向上対策(H21～23) ・優良苗の確保(H22～23) ・消費宣伝対策 ・選果ラインの改善検討(H22～23) ◆高収量、高品質化等の対策が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産地の維持拡大 ・生産の高収量、高品質化、コスト高騰対策 ・高知ブランドをPRする流通・販売対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆産地の維持拡大対策 ◆黄化エソ病対策 ◆GAPの推進 ◆出荷場の機能強化 ◆流通、販売、消費拡大対策
2 グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興	県育成品種の生産拡大を進め、品種の多様性を活かした販売対策を強化し、日本一のグロリオサ産地の活性化と農家所得の向上を図る。	・JA高知市 ・JA高知市三里園芸部花卉部会	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング事業の実施(H21～23) ・市場との販売検討会(H21～23) ・輸出への取り組み(H21～23) ◆高収量、高品質化等の対策が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産の高収量、高品質化、コスト高騰対策 ・高知ブランドをPRする流通・販売対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆県育成品種等新品种の栽培技術の確立と作付拡大 ◆流通・販売対策

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
産地の維持拡大対策				→	出荷量 (H23園芸年度: 10,500t)	H27園芸年度: 11,000t
担い手農家の規模拡大、新規就農者の確保育成 新規参入者の受入システムの構築(受入、技術習得研修、就農)						
黄化エソ病対策				→		
予察システムの実践						
天敵の試験導入と課題整理、解決 新たな導入啓発			天敵の定着			
GAPの推進				→		
春野地区版の作成、出荷場および生産農家でのPDCAの実践						
出荷場の機能強化				→		
選果ラインの高度化	近隣産地との統合					
流通、販売、消費拡大対策				→		
市場・消費者との交流会、県内主産地と連携した消費拡大PR、レシピの開発						
県育成品種等新品種の栽培技術の確立と作付拡大				→	販売額 (H22: 74,000万円)	H26: 80,000万円
品種特性に応じた適正な栽培管理の検討						
種イモの増殖と周年出荷できる計画的作付けの検討・実施						
流通・販売対策				→		
市場との販売検討会・市場調査・新品種PR						
輸出拡大に向けての検討						

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
3 生産と販売促進対策の強化による消費地に選ばれるユリ産地の振興	消費地ニーズに基づいた生産出荷対策を強化し、有利販売による農家所得の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市長浜支所園芸部花卉部会 ・JA高知春野 ・JA高知春野花卉部会球根部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング事業の実施(H21~23) ・市場との販売検討会(H21~23) ◆高収量、高品質化等の対策が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産の高収量、高品質化、コスト高騰対策 ・高知ブランドをPRする流通・販売対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆消費地のモニタリング調査 ◆新たな販売戦略の検討と実践 ◆市場ニーズに応じた生産出荷対策
4 イチゴの生産販売対策の強化による産地振興	生産安定対策(夏場の育苗、冬期の品質向上など)や新たな販売戦略の実践による介良イチゴの知名度アップと農家所得の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・JA高知市 ・JA高知市介良支所母部 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭そ病対策(H21~23) ・品種の統一(H21~23)と出荷規格の見直し(H23) ・栽培マニュアルの作成(H22) ・消費拡大PRの実践(H22~23) ◆秀品率の高い品種に転換し、高品質化と調整作業の効率化が進み、販売額もほぼ目標とする水準を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産安定対策(健全苗の確保、高収量、高品質化) ・介良ブランドをPRする流通・販売対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産安定対策 ◆流通・販売対策

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
消費地のモニタリング調査 需要・問題点の把握				→	販売額 (H23園芸年度: 43,000万円)	H27園芸年度: 46,000万円
新たな販売戦略の検討と実践 産地戦略の見直し 消費拡大PR、花シール作成						
市場ニーズに応じた生産出荷対策 需要に応じた品種の選定・出荷量の調整				→	販売額 (H23園芸年度: 10,900万円)	H27園芸年度: 12,000万円
生産安定対策 健苗の確保 高温対策、防除・栽培管理の徹底、高設雨よけ育苗施設の導入など冬期の品質向上						
流通・販売対策 朝採れ、HPの充実など「介良」イチゴをPRする取組の強化				→		

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値 (H27)
<p>産地ブランドのブラッシュアップ</p> <p>パッケージデザインの統一</p> <p>商標の取得</p> <p>パッケージ等トータルデザインによるブランド力強化</p> <p>共同出荷体制の再整備</p>					生産量 (H23:●t)	●t
<p>鳥獣被害対策</p> <p>防鳥ネット等の設置、カラスや害獣駆除、パトロール</p>						
<p>産地を支える経営体の育成</p> <p>担い手のあり方研究、経営体の育成</p>						
<p>産地計画の実践</p> <p>実践 計画の見直し 実践</p> <p>地域交流(百周年)</p>						
<p>地球温暖化に対応した栽培技術の確立</p> <p>白未熟粒対策(品種、作型、肥料、栽植密度等)</p>					販売額 (H23年産米: 495,410万円)	H27年産米: 450,000万円
<p>流通・販売対策</p> <p>実需者ニーズに対応した品種と作付面積の誘導</p> <p>乾燥調整施設の機能強化による品質向上と有利販売 色彩選別機、食味計の導入、受益地拡大に合わせた施設整備</p>					出荷量 (H23年産米: 2,660t)	H27年産米: 2,500t

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
7 新ショウガの生産振興	県内一の新ショウガ産地における生産・出荷体制と販売・消費拡大など、産地基盤の強化と農家所得の向上を図る。	・JA高知春野 ・JA高知春野ショウガ部会	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄機の整備(H21) ・出荷場の整備(H23) ・加工品の開発、販売(H21~23) ・品質向上対策(H21~23) ・消費宣伝対策(H21~23) ◆販売額は目標とする水準を上回る形で推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定生産と販売戦略の確立 ・水源確保と出荷場対策 	<ul style="list-style-type: none"> ◆産地戦略の策定と実践 ◆品質向上対策 ◆出荷場の機能強化 ◆販売、消費拡大PR
8 ユズを核とした中山間農業の活性化	中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大と高品質化を目指し農家経営の安定化を図る。また、食品産業との連携による6次産業の強化を目指す。	・JA高知市 ・JA高知市土佐山柚子生産組合	<ul style="list-style-type: none"> ・搾汁施設の整備(H21) ・県版HACCP取得(H23) ・優良複製母樹の確保と技術指導 ◆ユズ搾汁施設の改修により加工体制が強化され、また、大口需要者との継続的な取引が実現し、販売も安定する等一定の成果が見られた。 また優良母樹の確保対策なども、ほぼ計画どおり進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産の安定、高品質化対策と核となる担い手の育成による産地基盤強化 ・食品産業等との連携強化と消費者ニーズに対応した商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産の安定と高品質化対策 ◆連携型6次産業化の拡大・強化 ◆未利用部位の活用と搾汁残渣対策 ◆産地計画の実践

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値 (H27)
産地戦略の策定と実践				→	販売額 (H23園芸年度: 92,300万円)	H27園芸年度: 120,000万円
計画的作付け、産地目標の策定・見直し						
品質向上対策				→		
適正栽培管理の実践・病害虫対策の徹底(現地検討会、目慣らし会) 優良種塊茎の確保(露地栽培管理技術向上)						
出荷規則の徹底・見直し(市場事故対策)						
出荷場の機能強化				→		
節水対策の検討 (マイクロバブル洗浄機の検討)						
新たな水源確保、洗浄機増設						
販売、消費拡大PR				→		
レシピ作成、試食販売によるPR						
生産の安定と高品質化対策				→	販売額 (H19: 16,090万円) (H22: 19,226万円)	H26: 19,000万円
青果・貯蔵・加工用途果実の生産技術向上						
担い手の育成と生産基盤の強化						
連携型6次産業化の拡大・強化						
連携事業者との連携強化・拡大と商品アイテムの多様化						
未利用部位の活用と搾汁残渣対策						
未利用部位や新たな活用方法の研究						
残渣処理場の確保・コスト低減						
産地計画の実践				→		
実践 中間評価						

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
<p>四方竹の生産安定対策</p> <p>四方竹の生態の解明、栽培技術の改善、後継者対策</p>				<p>販売額 (H19:3,360万円) (H22:3,982万円)</p>	<p>4,000万円</p>	
<p>加工能力の改善と適正化</p> <p>一次加工施設の作業効率の見直し、加工能力の向上・整備 鮮度保持対策の改善・実践</p>						
<p>四方竹のブランド化戦略の実践</p> <p>都市圏での四方竹の認知度向上、他産地とも連携した販路開拓・拡大</p> <p>ターゲット(ホテル、飲食業、個人向け等)の絞り込み ターゲットに合った商品開発・販売方法の確立</p>						
<p>四方竹の振興方策の策定</p> <p>生産意向調査、中長期振興方針・計画の策定(情報共有)、実践</p>						
<p>有機農産物の栽培技術の確立と普及</p> <p>有機農業推進計画の策定</p> <p>有機農産物の栽培技術の確立、改善および地域への普及</p> <p>土づくりセンター施設整備</p> <p>堆肥の増産による有機農産物の生産拡大方策</p>						<p>販売額 (H22: 8,400万円)</p>
<p>有機農産物等の流通対策</p> <p>公社 販売計画の見直し (自社分、委託分、加工分)</p> <p>有機農産物等の販路開拓・拡大</p> <p>効率的な集荷・納入方法等の確立</p>						
<p>加工施設の機能強化、加工品の開発と販路拡大</p> <p>加工・集出荷施設計画・整備</p> <p>新たな加工品の開発 ターゲットの絞り込みとターゲットに合った販売方法の確立、販路の開拓・拡大</p>						

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
11 薬草の里づくり	安定した所得確保が可能な有望品目として薬草(ホソバオケラ、ミシマサイコ)の中山間地域への導入を拡大する。	・(財)夢産地とさやま開発公社 ・集落営農組織など	・薬用植物の栽培(H21~23) ・新規栽培者の掘り起こし(H22~23) ◆薬用植物のうち、ミシマサイコの取引が開始	・栽培技術の確立(ホソバオケラ)、向上(ミシマサイコ) ・栽培面積の拡大 ・経済性の検討(ホソバオケラ)	◆生産の拡大
12 直販店を核とした鏡地域の活性化	高齢化に伴って販売額が伸び悩んでいるため、需給ギャップの解消や新規顧客開拓など、消費者ニーズに基づく活力ある直販所づくりと農家所得の向上を図る。	・鏡村直販店組合	・生産履歴活動の推進(H22~23) ・需給ギャップの検証(H23) ◆記帳率100%となり「安心・安全」な直販所としてPR	・生産農家の高齢化による出荷量および品目の減少と需給ギャップ ・消費者ニーズに基づく直販所と生産体制づくり	◆消費者ニーズに応じた生産販売対策 ◆効率的な集出荷体制の構築
13 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上	新たな価値を創造する野菜・果実の地区内生産と地区内農産物を活用した新たな加工品を開発するとともに、当該加工品の新たな販路確保による農家所得の向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。	・(有)スタジオ・オカムラ ・連携農家	・加工場の整備(H23) ・加工品の開発、販路開拓(H22~23) ◆農産物加工場が整備され、トマトソース、ジンジャーエール等の本格的な製造が始まり、積極的な販路開拓や新たな商品開発が進められており、新たな商談が持ち込まれるなどの成果がみられる。 また加工用トマト(サンマルツァーノ)の品種特性の把握、新たな連携農家の確保など、地域の農産物生産者と連携した取り組みが進んでいる。	・加工品の安定生産と販路の確保 ・新たな加工品の開発 ・加工の原材料となる農産物の安定生産	◆加工品の安定生産と販路の確保、新たな加工品の開発 ◆加工に適した野菜等の生産体制の整備

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
生産の拡大				→	販売額 (H22:25万円)	H●万円
ホソバオケラの栽培技術(欠株、増収など)の確立(試験ほの設置など)と普及対策						
高知市中山間地域での経済性の評価						
新規栽培者の確保、栽培面積の拡大						
ミシマサイコの栽培技術の向上対策						
消費者ニーズに応じた生産販売対策				→	販売額 (H22:16,454万円)	H26:17,000万円
計画生産など需給ギャップの解消への取組強化 料理教室や販促イベントの定例化 商品の宅配、午後の品揃えなど消費者と生産者が結びつく体制づくり						
効率的な集出荷体制の構築				→		
店舗間の輸送手段の確立、リオ店の機能強化(総菜加工の検討など)						
加工品の安定生産と販路の確保、新たな加工品の開発				→	販売額 (H22:0)	9,400万円
消費者ニーズに応じた新たな商品開発と開発商品のブラッシュアップ 商談会などへの積極的な参加による新たな販路の開拓 購買層に応じた商談会への参加と商品の付加価値化 商談、販売計画に基づいた加工品の計画生産						
加工に適した野菜等の生産体制の整備				→		
加工用トマトの栽培技術の確立	加工用トマトの低コスト生産と安定供給					
加工用野菜のリストアップと栽培技術の確立、連携農家の掘り起こし						

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21～23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
14 「食」の提供による地域農産物の消費拡大	ニーズの高い総菜加工の充実や地域内の農産物を活用した新たな加工品開発の拠点とするとともに、農業教室や料理教室の開催など地域住民の農業への関心を高める活動、バイキングレストランの開催など地産地消の拠点施設として「新農村婦人の家」の機能強化を図る。	・JA高知市 ・JA高知市女性部			◆農産物加工施設の機能強化による新たな事業展開の構築
15 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出	地場産品を活用した安心・安全な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。	・高知市酪農農業協同組合	・菓子販売店舗のリニューアルオープン(H22) ・酪農教育ファーム、オープンファームの実施(H21～23) ◆店舗の知名度も徐々に上がり、店舗はもちろんのこと、県庁生協等店舗外での売上金額も増えてきている。また、原則毎月一回開催(雨天の場合中止)しているオープンファーム等のイベントによって、牧場を身近に感じてもらう取り組みも始めている。	・新規顧客の開拓とリピーターの確保 ・顧客ニーズにあった商品開発	◆地場産品による生乳加工品の製造・販売 ◆観光地及び教育の場としての牧場の活用
16 森の工場を核とする素材生産量の拡大	搬出間伐を中心とする素材生産量の増大や、生産性の向上に取り組むとともに、素材生産の拡大に必要な作業実行体制(他事業者との連携協力を含む)の強化につなげる。	・高知市森林組合	・森林施業に伴う集約化や作業道開設、間伐の実施(H21～23) ◆森の工場内での間伐面積等は増加している。	・施業拡大に向けた森林組合の人員体制の確保	◆森の工場の拡大(森林所有者の合意取り付け) ◆搬出間伐を中心とする素材生産量の増大と生産性の向上 ◆素材生産量の拡大に必要な作業実行体制の検討(他事業者との連携協力を含む)

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
<p>農産物加工施設の機能強化による新たな事業展開の構築</p> <p>農産物加工施設の改修</p> <p>食農教育、料理教室など消費者交流の推進</p> <p>新たな加工品の開発と販売</p> <p>総菜メニューの開発、弁当等の販路開拓、農家レストランの開催</p>					販売額 (H22:1,500万円)	H26:2,000万円
<p>地場産品による生乳加工品の製造・販売</p> <p>生乳加工品の開発・販売、外販の拡大</p>					店舗の販売額 (H20:新規) (H22:817万円)	1,600万円
<p>観光地及び教育の場としての牧場の活用</p> <p>酪農教育ファーム等のふれあい機能の拡大</p>						
<p>森の工場の拡大</p> <p>森の工場の推進、森林経営計画の策定</p>					森の工場面積 (H22:1,174ha)	1,500ha
<p>搬出間伐を中心とする素材生産量の増大と生産性の向上</p> <p>高性能林業機械の導入・作業道の開設など基盤整備 高度な技術を有する職員の育成・確保</p>					素材生産量 (H22:1,707m3)	4,000m3
<p>素材生産量の拡大に必要な作業実行体制の検討</p> <p>高度な搬出技術の取得に必要な研修、作業システムの確立 他事業体(素材生産事業体)との協力態勢の検討</p>						

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
17 県産材を使った安心・安全の木造住宅の普及促進	高知市地域の森林から生産された木材を使った木造住宅(こうち里山の家)の販売、普及促進に取り組み、木材の地産地消を推進する。	・木の家ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の家完成(H22) ・普及促進事業の実施(H23) ◆件数は少ないが成約実績もあがっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県産材に対する信頼性の向上と里山の家等の認知度のUP 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「こうち里山の家(自由設計)」の受注増 ◆低価格の「こうち里山の家(規格住宅)」の普及促進 ◆トレーサビリティの認知度の向上
18 竹バイオマスを活用した新しい産業の創出	自動車の内装材等、新たな製品の製造の取り組みが具体化していることから、原料となる竹の安定供給など課題解消に向けた支援を行いながら、竹バイオマスを活用した産業の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)コスモ工房 ・(株)竹産 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスタウン構想の策定(H21) ・企業誘致(H21~23) ◆交渉していた企業の誘致を断念。これまでとは別の竹資源を活用した企業案件で再構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自動車の内装材等、竹を使った製品の製造、販売 ◆原材料となる竹の確保及び安定供給 ◆竹残材のバイオマス利用

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
<p>こうち里山の家(自由設計)の受注増</p> <p>モデルハウスやホームページ等を活用したPR活動</p>				→	こうち里山の家を受注 (H22:2棟)	20棟
<p>低価格の「こうち里山の家(規格住宅)」の普及促進</p> <p>パンフレットや見学会の開催などによるPR活動</p>						
<p>トレーサビリティの認知度の向上</p> <p>川上～川下の事業者の連携による管理態勢の強化、参加事業体を増やす取組、消費者へのPR活動</p>						
<p>自動車の内装材等、竹を使った製品の製造、販売</p> <p>自動車のハンドル・内装材などの製造販売、竹集成材・突板を使った新商品の開発</p>				→	原竹消費量 (H23:21,900本)	73,800本
<p>原材料となる竹の確保及び安定供給</p> <p>竹林の調査及び管理、伐採搬出体制の確立、集積場の整備</p>						
<p>竹残材のバイオマス利用</p> <p>残材の有効利用の検討、堆肥・脱臭材の製造・販売</p>						

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
19	はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化	・商店街振興組合など	・チャレンジショップの開設(H23) ・憩いのスペースの整備(H23)など ◆46のプランを熟度の高いものから順次実施しているが、事業開始から日が浅く、具体的な成果には至っていない。	・民間事業の事業主体の確立、スピード化	◆東西軸エリア活性化プランの推進
20	中心商店街でのアンテナショップの運営	・(株)まこと	・アンテナショップ「てんこす」の運営(H21~23) ◆高知市中心部にアンテナショップ「てんこす」を開設し、地域産品の掘り起こしや販売が進み、地産地消・地産外商の促進につながった	・アンテナショップ「てんこす」の販売額の増加 ・アンテナショップを中心に事業者などとの連携による地域産品の積極的なPR	◆常設のアンテナショップの運営
21	多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり	・商店街振興組合など	・100円商店街等イベントの実施(H22~23) ・フラフの作成(H23) ◆イベントの実施により商店街等への来街者の増加および周辺エリアへの回遊が見られた。効果のあるイベント等を継続して行い、商店街および周辺エリアの魅力を再認識してもらい来街者の増加を図る。	・集客力の向上 ・リピーターの創出	◆せり出し商いプロジェクト等の推進
22	おまちに関する情報発信の充実	・商店街振興組合	・「おまち」のホームページよさこいタウンリニューアルおよびブログ・ツイッターによる情報発信(H23) ・「おまち情報」の地図・テキストによる配信(H23) ・おまちボード(看板)、OBIBURA MAPの改訂版の作成(H23) ◆H23年に中心街ホームページ(よさこいタウン)のリニューアルを図り、ブログ、ツイッターによる新たな情報発信を開始するとともに、関係団体等との相互リンクを形成した。◆いままで実施されていなかった、「おまちに特化した情報」を収集し試行的におまち情報を配信している。	・おまち情報発信体制の確立 ・観光の情報発信との連携	◆おまちの情報発信

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
<p>東西軸エリア活性化プランの推進</p> <p>46の事業の展開</p> <p>(1)スポット・地域ごとに実施するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知城:歴史をテーマとした新たな拠点づくり、お城の魅力向上、お城周辺のにぎわい・回遊性確保 ・追手筋:日曜市の活性化 ・追手前小学校跡地:追手前小学校跡地の活用 ・アーケード、おひさんロード:おまちの拠点づくり、おまちのにぎわいづくり、おまちの店舗対策、来街者にやさしい商店街づくり ・中央公園:中央公園の魅力アップ ・はりまや橋:はりまや橋のイメージアップ <p>(2)エリア全域で実施するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よさこい祭り:よさこい祭りの聖地づくり ・まんが文化:まんが文化によるにぎわいづくり ・土佐の食文化:土佐の食・酒文化のパワーアップ ・土佐の偉人:土佐の偉人のアピール <p>(3)連携して実施するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適空間形成:誰もが快適に過ごせる空間づくり ・まち歩き:まち歩きの促進 ・公共交通:公共交通との連携 				<p>→</p>	<p>商店街等の通行量 (夏期・休日) (H20:5.6万人/日) (H22:5.8万人/日)</p> <p>観光客の入込み客数 (H19:230万人) (H22:326万人)</p> <p>空き店舗率 (H20:15.3%) (H22:13.4%)</p>	<p>H20実績(5.6万人)以上を維持</p> <p>300万人</p> <p>H20実績(15.3%)以下を維持</p>
<p>常設のアンテナショップの運営</p> <p>アンテナショップでの地産地消・地産外商の促進</p>				<p>→</p>	<p>販売額 (H22.2.19~ H23.2.18: 89,181千円)</p>	<p>184,300千円</p>
<p>せり出し高いプロジェクトの推進</p> <p>商店街での集客イベントの実施</p> <p>フラフ等を活用した商店街の演出の実施継続</p> <p>100円商店街やせり出し高いイベントの実施および拡大</p>				<p>→</p>		
<p>おまちの情報発信</p> <p>総合的な情報発信の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おまちの情報デジタルコンテンツ作成 ・おまちのタブロイド紙の発行 ・おまちボード用ポスターの掲示、チラシの配布 ・OBIBURA MAPの改訂 				<p>→</p>		

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21～23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
23 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上	新たな高知市中心市街地活性化基本計画を策定し、多様な主体の参画のもとに、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指す、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取組を進める。	・高知市	・中心市街地活性化基本計画検討委員会(H21～22) ・国との協議(H23) ◆高知市中心市街地活性化基本計画の24年度の策定に向けて策定作業は順調に進んでいる。	・搭載事業のブラッシュアップ	◆高知市中心市街地活性化基本計画の推進
24 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進	周辺市町村等とのネットワークを強化し、情報発信機能の強化やPR活動の充実、着地型観光の周遊ルートづくりを行うことにより、宿泊客の増加を図る。	・瀨城西館等宿泊施設 ・高知市	・仁淀川地域観光協議会へのオブザーバー参加(H22～23) ・着地型旅行商品追加開発(H22) ◆民間事業者による着地型旅行商品造成の動きが、高知市内だけでなく周辺地域の自然や伝統文化、食材等の地域資源を観光資源に育てることへ繋がり、周辺地域の活性化へ寄与している。	・近隣地域との連携の強化	◆高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進 ◆広域観光の推進
25 「よさこい」を通じた観光客の誘致	本家「よさこい」をアピールし、本祭や全国大会への観光客の増加を図る。また、夏場以外のよさこいの活性化等により年間を通じたよさこいの魅力向上を図る。	・高知市 ・(社)高知市観光協会ほか関係団体	・君が踊る夏のロケ地マップの作成、配布(H22～23) ・地方車用音響設備の整備(H23) ◆2011サッカー「アジア大会」でよさこいが披露されるなど、民間の力で一部成果はあったものの、よさこいのルーツをアピールする体系的な動きとなっていない。	・年間を通して「よさこい」で集客できるよう事業スキームの見直し	◆年間を通じた「よさこい」の魅力づくり
26 温泉開発による観光地としての魅力の向上	観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。	・高知市旅館ホテル協同組合(高知市旅館ホテル温泉協同組合)	・温泉フェアの実施(H22) ◆新規温泉開発によるビジネスモデルを検討。	・新規温泉開発及びコスト、リスクの再検討	◆温泉の開発と活用に向けた検討

第2期計画				H28以降	指標及び目標		
H24	H25	H26	H27		指標	目標値 (H27)	
<p>高知市中心市街地活性化基本計画の推進</p> <p>計画策定の国の認定</p> <p>計画登録事業の実施</p>							
<p>高知市内や近隣地域の観光資源を活かした体験型観光の推進</p> <p>観光資源の発掘、磨き上げ、商品化</p>						高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数 (H21:約99万人)	112万人
<p>広域観光の推進</p> <p>高知中央広域市町村圏事務組合、仁淀川地域観光協議会等とのネットワークの強化によるPR活動及び情報発信機能の充実、周遊ルートづくり</p>							
<p>年間を通じた「よさこい」の魅力づくり</p> <p>情報を一堂に展示する場の検討</p> <p>整備</p> <p>展示</p> <p>夏場以外の「よさこい」イベントの充実、情報発信</p> <p>地方車用音響設備の活用</p>						よさこい祭り来場者数 (H22:1,200千人)	近年の最高来場者数 (1,200千人)の維持
<p>温泉の開発と活用に向けた検討</p> <p>実現に向けた検討</p> <p>検討結果に基づく対応</p>							

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21～23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
27 浦戸湾を活用した観光の振興	浦戸湾を活用した観光遊覧船の取組等により県内外からの観光客の誘客を図る。	・特定非営利活動法人きらりこうち都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・3隻目導入(H21) ・様々な企画遊覧の実施(H22～23) ◆観光遊覧船は3隻体制で運航開始したH22年度の乗船客数は前年度より着実に増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗船客数の増加のための企画商品づくりとPR 	<ul style="list-style-type: none"> ◆周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充 ◆新たな観光遊覧船の活用 ◆関連商品の開発・販売
28 土佐の偉人を活かした観光の振興	坂本龍馬をはじめとする土佐の偉人ゆかりの地の魅力を高め、県外に情報発信するとともに、歴史、文化、町並みや食などを活用した「まち歩き」を充実させることにより県内外からの観光客の誘客につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(社)高知市観光協会 ・特定非営利活動法人土佐観光ガイドボランティア協会 ・長宗我部連絡協議会等関係団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・龍馬の生まれたまち記念館のパンフレット作成及び展示物の外国語ガイド開始(H22) ◆土佐っ歩はH23.4からコースをリニューアルして参加者のニーズに対応したコースとなり、また、高知市郊外を巡る「土佐勤王党コース」及び「長宗我部コース」を設定する等魅力が向上している。 ・瑞山記念館のリニューアル(H22) ・長宗我部関連マップの作成、配布(H22～23) ◆武市半平太旧宅と墓周辺の観光資源の磨き上げを行ったことにより、県内外からの観光客から好評を得ている。また、長宗我部関連イベントも定着しつつあり、当初の事業目的を一定達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きの更なる魅力向上と団体客の確保 ・土佐の偉人関連施設の整備充実とルート化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上 ◆土佐の偉人関連イベントの充実 ◆土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上
29 食による観光の推進	高知市内で開催される「おきやく」や「豊稷祭」などの食イベントを定着・充実させること等により高知の強みである「食」を活かした観光を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐のおきやく推進会議 ・豊稷祭実行委員会(仮称) ・高知市観光協会ほか関係団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・新名物料理を市内の飲食店で提供開始(H21) ◆新たなご当地グルメの取り組みについては、一時高知市内9店舗で提供されていたが現時点では1店舗に減少となるなど、新たな食の創造につながっていないこともあり、今後の食に対する取り組みの見直しをする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食をテーマにした事業の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ◆春の「おきやく」や秋の「豊稷祭」の定着・充実

第2期計画				H28以降	指標及び目標	
H24	H25	H26	H27		指標	目標値(H27)
周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充 御置瀬漁協、桂浜荘等と連携した特別企画遊覧の拡充					観光遊覧船の乗船客数 (H22:5,899人)	15,000人
新たな観光遊覧船の活用 大型船を使った特別企画の確立 大型船の活用による集客力の向上						
関連商品の開発・販売 関連商品の開発・販売						
「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上 観光客のニーズに対応したコースの見直し・新設					「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」等への参加人数 (H23 1/1～12/31: 3,790人)	3,800人
土佐の偉人関連イベントの充実 坂本龍馬、長宗我部元親など土佐の偉人関連イベントの実施、情報発信						
土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上 関連史跡等の整備、PR活動の推進						
春の「おきゃく」や秋の「豊穰祭」の定着・充実 「おきゃく」や「豊穰祭」の継続的開催						